**＜　　　発　　表　　題　　　＞**

**「　学習指導案　」**

**はじめに**

授業者所属・職・名前　　□□立□□高等学校　教諭　□□　□□

（日　時　　令和□年□月□日（□）　□時限）

（対　象　　第□学年□組　書道□選択者　□□名）

（科　目　　例：書道Ⅰ）

単元設定の理由

□□□（今回の授業を設定した理由等を記述）□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

育てたい資質・能力

□□□（スクール・ポリシーを起点としたカリキュラム・マネジメントを記述）□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

**１　単元名**

　　＜楷書＞書風と結構法（孔子廟堂碑、九成宮禮泉銘）（「漢字の書」単元①）

**２　内容のまとまりにおける単元構成**

「Ａ表現」(2)「漢字の書」総時間数　32時間

　　単元①　＜楷書＞書風と結構法（孔子廟堂碑、九成宮禮泉銘）　　　　 　全4時間【本単元】

　　単元②　＜楷書＞書風と線質〔筆圧の変化〕（雁塔聖教序、顔氏家廟碑）　全4時間

　　単元③　＜楷書＞書風と線質〔円筆・方筆〕（牛橛造像記、鄭義下碑）　　全4時間

　　単元④　＜楷書＞楷書の創作　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　全4時間

　　単元⑤　＜行書＞行書の運筆の基本と書風（蘭亭序、風信帖）　　　 　　全4時間

　　単元⑥　＜行書＞行書の創作　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　全4時間

　　単元⑦　＜篆書＞篆書の用筆法・運筆法（泰山刻石）　　　　　　　　　 全2時間

　　単元⑧　　篆刻　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 全6時間

**３　単元の評価規準**

**(1)知識・技能**

**○知識**

・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。（知表）

・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。（知鑑）

**○技能**

・孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。（技）

・九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。（技）

**(2)思考・判断・表現**

・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。

（思表）

・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。（思鑑）

**(3)主体的に学習に取り組む態度**

・自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（態表）

・書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（態鑑）

**４　指導と評価の計画**

　　・年間授業時数‥　70時間　・「漢字の書」‥32時間　・本単元の配当時間‥　4時間

**（１）指導と評価の計画（概要）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元 | 時間 | 学習活動 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知表 | 知鑑 | 技 | 思表 | 思鑑 | 態表 | 態鑑 |
| 「漢字の書」単元① | 第１次（２時間）（本時） | 本単元の見通し本次の見通し① |  |  |  |  |  |  |  |
| 鑑賞①（孔子廟堂碑） |  |  |  |  |  |  |  |
| 観点の確認①（書を構成する要素） |  |  |  |  |  |  |  |
| 構想・工夫① |  |  |  |  |  |  |  |
| 作品制作① |  |  |  |  |  |  |  |
| 相互鑑賞・意見交換① |  |  |  |  |  |  |  |
| 構想・工夫の見直し① |  |  |  |  |  |  |  |
| 作品制作② |  |  |  |  |  |  |  |
| 相互鑑賞・意見交換② |  |  |  |  |  |  |  |
| 自己評価① |  |  |  |  |  |  |  |
| 学習のまとめ① |  |  |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価●記録に残す評価 | ◎ |  | ◎● | ◎ |  | ◎ |  |
| 第２次（２時間） | 本次の見通し② |  |  |  |  |  |  |  |
| 鑑賞②（九成宮醴泉銘） |  |  |  |  |  |  |  |
| 観点の確認②（書を構成する要素） |  |  |  |  |  |  |  |
| 構想・工夫② |  |  |  |  |  |  |  |
| 作品制作③ |  |  |  |  |  |  |  |
| 相互鑑賞・意見交換③ |  |  |  |  |  |  |  |
| 構想・工夫の見直し② |  |  |  |  |  |  |  |
| 作品制作④ |  |  |  |  |  |  |  |
| 相互鑑賞・意見交換④ |  |  |  |  |  |  |  |
| 自己評価② |  |  |  |  |  |  |  |
| 学習のまとめ② |  |  |  |  |  |  |  |
| 単元の学習のまとめ |  |  |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価●記録に残す評価 | ● | ● | ◎● | ● | ● | ● | ● |

※「　　　　　　」は評価場面の連続性を示す。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.58を参考に作成

**（２）本単元における観点別学習状況の評価方法**

|  |  |
| --- | --- |
| 評価の観点と単元の評価規準 | ◆「努力を要する」状況(Ｃ)と判断される生徒への手立て |
| 知識・技能 | 知表 | ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 | ◆他者の意見の活用の仕方を例示するなどして、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて実感的に理解できるよう支援する。 |
| 知鑑 | ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 | ◆ＩＣＴを活用して、書風を形づくる「字形」、文字構成の「構成」等の要素と表現効果や風趣との関わりを理解させるなどして、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて実感的に感受し、理解できるよう支援する。 |
| 技能 | ・孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 | ◆学習活動を振り返らせたり、ＩＣＴを活用して動画や画像を再度確認させたりして、自身の表現の意図、構想と関連付けて実感的に捉えて表すことができるよう支援する。 |
| ・九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 | ◆学習活動を振り返らせたり、ＩＣＴを活用して動画や画像を再度確認させたりして、自身の表現の意図、構想と関連付けて実感的に捉えて表すことができるよう支援する。 |
| 思考・判断・表現 | 思表 | ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 | ◆意見交換で得られた他者の感じ方や捉え方、考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、古典の書体や書風に即した用筆・運筆から生まれる「線質」、書風を形づくる字形、全体の構成について理解させ、構想・工夫とその再構築に取り組めるよう支援する。 |
| 思鑑 | ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 | ◆自身の学習過程の振り返りとそれに対する自己評価の方法を例示し、書を構成する要素（「字形」「構成」）と表現効果との関わりについて理解させるなどして、作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える活動に取り組めるよう支援する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 態表 | ・自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 | ◆学習した書を構成する要素（「字形」「構成」）、用具・用材の特徴と表現効果との関わり、自身の取組の経緯を振り返らせ、既得の知識と技能を生かして、書体や書風に即して表現を工夫して表したいと思えるように支援する。 |
| 態鑑 | ・書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 | ◆学習した書を構成する要素（「字形」「構成」）、用具・用材の特徴と表現効果との関わり、自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者の感じ方や捉え方、考え方を振り返らせ、古典の意味や価値について考え、書のよさや美しさを感受し、主体的に鑑賞の学習活動に臨みたいと思えるように支援する。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.61～63を参考に作成

**（３）本時における学習過程と評価の方法の具体**

　**ａ**　**＜楷書＞書風と結構法（「漢字の書」単元①）（２時間）の学習計画**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点「・」指導上の留意点「◆」支援内容 | 評価の方法◎指導に生かす評価●記録に残す評価「観」活動の様子「ワ」ワークシート「作」作品「Ｉ」ＩＣＴ成果物 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知表 | 知鑑 | 技 | 思表 | 思鑑 | 態表 | 態鑑 |
| 第１次 | 導入 | 15分 | **○単元の見通し****本次の見通し①**・本単元の流れ及び本次の学習活動を確認し、本単元、及び本次で身に付けたい資質・能力など、自身の学習の見通しについて考え、タブレットで「学びの記録」の「本単元の学習に向けて」「本次の学習に向けて」に記録する。 | ・本単元の流れ及び本次の学習活動について、パワーポイントで示しながら確認させ、生徒が単元の見通しをもって学習活動に取り組むことができるように支援する。（ＩＣＴの活用） |  |  |  |  |  | 観 | 観 |
| **〇鑑賞①**・古典のよさや美しさを直感的に感受し、中学校国語科の書写で学習・習得した知識・観点を生かして書風を捉え、言語化してワークシートに記入する。・孔子廟堂碑の歴史的背景やその価値を理解する。 | ・他の古典の拡大画像を活用することで、初見の古典に対しても書風を捉えやすくさせ、それぞれに感じ方や捉え方、考え方を働かせながら直感的な鑑賞に臨めるよう働きかける。（ＩＣＴの活用） |  | 観 |  |  | ワ |  | ワ |
| **○観点の確認①**◎書を構成する要素（字形・構成等）・中学校国語科の書写で学習・習得した知識・観点を確認し、新たな観点を理解する。構成のうち、特に結構法の観点（向勢及びその特徴に基づく点画の形状等）から孔子廟堂碑の書風を捉え、その表現性と表現効果について考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループ） | ・全景画像や拡大画像を提示して文字及び文字群の造形の特徴をわかりやすくしたり、他の古典の画像を提示して書風を比較したりして、孔子廟堂碑の書風を大きな視点で捉え、その表現性と表現効果について考えられるよう働きかける。（ＩＣＴの活用） | ワ |  |  | ワ |  | 観 |  |
| 展開 | 75分 | **○構想・工夫①**・孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想、その実現のための表現の工夫について、観点の確認で新たに習得した知識・観点を生かして考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 | ・他の古典と比較するなどして「鑑賞①」及び「観点の確認①」で直感的に捉え感じ取った古典の書風と書を構成する要素（字形・構成等）とそこから生じる表現性と表現効果を踏まえながら、新たに習得した知識・観点を活用して構想・工夫に取り組めるよう働きかける。 | ワ |  |  | ワ |  | 観 |  |
| **○作品制作①**・書風と書を構成する要素（字形・構成等）とそこから生じる表現性と表現効果を踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫して作品を表し、作品の写真データをタブレットで「学びの記録」の「作品制作①」に貼付するとともに、表現の工夫をしたことについて記録する。（半紙２字） | ・自身の複数の動画（始めの動画と構想・工夫の改善後の動画など）を撮影させ、構想・工夫の実現状況を自ら調整しながら制作に取り組むよう働きかける。（ＩＣＴの活用）・示範動画や事例を示して、表現活動を通して用具・用材の特徴と古典の書風及び用具・用材の特徴と表現効果との関わりについても理解が深まるよう働きかける。　（ＩＣＴの活用） |  |  | 作◎ |  |  | Ｉ |  |
| **○相互鑑賞・意見交換①**・孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関係を再度確認し、見方・考え方を働かせて、他者との作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想と、その実現のための表現の工夫等について相互に考えを伝え合うことで、新たな感じ方や捉え方、考え方に触れ、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を見直し、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループまたは全員） | ・他者の作品や意見を認め合い、尊重する姿勢で活動するよう働きかける。・意見交換においては、それぞれの感じ方や捉え方、考え方を伝え合い、互いに他者の考え方を尊重しながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を広げられるよう働きかける。◆孔子廟堂碑の書風を捉えられていない生徒に対しては、孔子廟堂碑の書風と他の古典の書風とを比較して捉えられるよう画像等を活用して示し、孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関係を再度確認させ、用筆・運筆から生み出される表現性と表現効果との関係について理解できるよう支援する。（ＩＣＴの活用） |  | ワ |  |  | ワ |  | 観 |
| **○構想・工夫の見直し①**・相互鑑賞・意見交換を通して広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫を見直し、必要な修正と新たな課題を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 | ・示範動画と自身の動画とを比較するなどして、広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせながら、既得の知識・観点を活用して古典の書風を分析的に捉えることで、用筆・運筆から生み出される書の表現性と表現効果との関係について理解できるよう働きかける。・古典の書風を、字形や点画の形状等の視点からのみ捉えるのではなく、用筆・運筆（書における運動性）の視点からも捉えられるよう働きかける。　（ＩＣＴの活用）◆他者の意見の活用の仕方や、それを生かした構想・工夫の見直しの手順がスムーズに行えない場合には、活用の仕方を例示するなどして、段階的に必要な支援を行う。 | ワ◎ |  |  | ワ◎ |  | 観 |  |
| **○作品制作②（清書）**・構想・工夫の見直しを踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫して作品を表し、作品の写真データをタブレットで「学びの記録」の「作品制作②」に貼付するとともに、表現の工夫の見直したしたことについて記録する。 | ・見直した構想・工夫に基づき、表現を工夫するために、示範動画（や自身の動画）を確認させるなどし、構想の実現に向けた表現活動に取り組めるよう働きかける。（ＩＣＴの活用） |  |  | 作● |  |  | 観 |  |
| **〇相互鑑賞・意見交換②**・見方・考え方を働かせて、孔子廟堂碑の清書作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図に基づく構想の実現状況や、その実現のための表現の工夫の成果等について相互に考えを伝え合い、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を更に広げ、新たな考え等を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループまたはクラス全体で実施。） | ・作品の一斉掲示による共有（大画面での共有、個々のタブレットでの共有等）により、より多くの他者との相互鑑賞・意見交換できる環境を用意し、自身の学習の成果を見つめ直すとともに、それぞれに他者の学習の成果を認め合い、書のよさや美しさ、作品の意味や価値についても考えられるよう働きかける。（ＩＣＴの活用） |  | ワ |  |  | ワ |  | ワ |
| **○自己評価①**・自身の制作と構想･工夫の過程を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能を改めて見つめ直すとともに、見方・考え方を働かせて、完成した作品（清書）とその制作過程について振り返り、広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせながら孔子廟堂碑の書風を理解して作品を表すことができたか自己評価を行い、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の「表現学習の振り返り」に記録する。 | ・自身の学習過程の振り返りが、次時以降の学習への見通しに繋げられるよう働きかける。◆自身の学習過程の振り返りとそれに対する自己評価を適切に行えない場合には、振り返りと自己評価の方法や観点について例示するなどして、今後の学習活動での振り返り、自己評価に繋げられるよう段階的に支援する。 | ワ |  |  | ワ |  | ワ◎ |  |
| まとめ | 10分 | **○学習のまとめ①**・本時の学習を振り返り、本時の学習内容、その中で併せて学習してきた〔共通事項〕の内容について改めて確認するとともに、自他の表現した作品の意味や価値について考え、学習成果を生活や社会の中で生かすことについて、主体的に考え、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の「鑑賞学習の振り返り」に記録する。 | ・本時の学習を振り返らせ、本時の学習を通して習得した知識や技能、学習の中での思考・判断の過程、学習の中で働かせ広げた感じ方や捉え方、考え方について改めて確認させることにより、自身の学習の成果を実感させるとともに、自他の表現した作品の価値とその根拠について主体的に考えたり、学習成果を生活や社会の中で生かしていきたいと主体的に考えたりできるよう働きかける。 |  | ワ |  |  | ワ |  | ワ |
| ◎指導に生かす評価●記録に残す評価 | ◎ |  | ◎● | ◎ |  | ◎ |  |
| **【評価の方法の具体】**ここでは主に、単元の目標及び評価規準、評価方法の内の1項目である「孔子廟堂碑」について評価することとして評価の方法の具体を示した。**知表◎：**＜構想・工夫の見直し①＞表現の工夫を見直し修正する活動を通して、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点（書体や書風と用筆・運筆との関わり）、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（時間性と運動性）について理解し、活用して、適切な用語を用いて言語化したりする中で実感的に理解している状況を、ワークシートの「構想・工夫の見直し①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい知識の活用例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。**技　◎：**＜作品制作①＞作品制作を通して、表現の意図及びそれに基づく構想の実現に向けた表現活動で表現を工夫する中で、孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆等の表現の技能を身に付け表している状況を、活動の様子の観察や作品及び「学びの記録」の「作品制作①」の記述内容等から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記入し、よい作品例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。**技　●：**＜作品制作②（清書）＞これまでの「構想・工夫の見直し①」や「相互鑑賞・意見交換①」を生かして、更に構想・工夫を見直し、知識を生かしながら再構築している状況と、資質・能力を身に付けている実現状況を、「作品制作②」の作品及び「学びの記録」の「作品制作②」の記述内容から見取り、記録に残す。**思表◎：**＜構想・工夫の見直し①＞構想・工夫の見直しをする中で、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点（古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成）や〔共通事項〕（書を構成する要素（「字形」「構成」）、書における運動性）を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら構想・工夫し、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「構想・工夫の見直し①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい見直しの例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。**態表◎：**＜自己評価①＞自身の制作過程を振り返る中で、孔子廟堂碑の書体や書風に即した表現の実現の学習活動で知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強く取り組もうとしているか、その中で作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能の振り返りで必要な修正と新たな課題について自らの学習を調整しようとしているかの両側面から、主体的に学習に取り組もうとしている状況を、「学びの記録」の「表現学習の振り返り」の記述内容から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい自己評価の例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.47～48、P.59～61、P.64～76を参考に作成

　**ｂ　単元①「楷書の書風と結構法」第１次（２時間）の学習計画【本時はその２時間目】**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点「・」指導上の留意点「◆」支援内容 | 評価の方法◎指導に生かす評価●記録に残す評価「観」活動の様子「ワ」ワークシート「作」作品「Ｉ」ＩＣＴ成果物 | 評価の方法の具体 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知表 | 知鑑 | 技 | 思表 | 思鑑 | 態表 | 態鑑 |
| 第１次 | 導入 | 15分 | **○単元の見通し****本次の見通し①**・本単元の流れ及び本次の学習活動を確認し、本単元、及び本次で身に付けたい資質・能力など、自身の学習の見通しについて考え、タブレットで「学びの記録」の「本単元の学習に向けて」「本次の学習に向けて」に記録する。 | ・本単元の流れ及び本次の学習活動について、パワーポイントで示しながら確認させ、生徒が単元の見通しをもって学習活動に取り組むことができるように支援する。（ＩＣＴの活用） |  |  |  |  |  | 観 | 観 |  |
| **〇鑑賞①**・古典のよさや美しさを直感的に感受し、中学校国語科の書写で学習・習得した知識・観点を生かして書風を捉え、言語化してワークシートに記入する。・孔子廟堂碑の歴史的背景やその価値を理解する。 | ・他の古典の拡大画像を活用することで、初見の古典に対しても書風を捉えやすくさせ、それぞれに感じ方や捉え方、考え方を働かせながら直感的な鑑賞に臨めるよう働きかける。（ＩＣＴの活用） |  | 観 |  |  | ワ |  | ワ |  |
| **○観点の確認①**◎書を構成する要素（字形・構成等）・中学校国語科の書写で学習・習得した知識・観点を確認し、新たな観点を理解する。構成のうち、特に結構法の観点（向勢及びその特徴に基づく点画の形状等）から孔子廟堂碑の書風を捉え、その表現性と表現効果について考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループ） | ・全景画像や拡大画像を提示して文字及び文字群の造形の特徴をわかりやすくしたり、他の古典の画像を提示して書風を比較したりして、孔子廟堂碑の書風を大きな視点で捉え、その表現性と表現効果について考えられるよう働きかける。（ＩＣＴの活用） | ワ |  |  | ワ |  | 観 |  |  |
| 展開 | 75分 | **○構想・工夫①**・孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想、その実現のための表現の工夫について、観点の確認で新たに習得した知識・観点を生かして考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 | ・他の古典と比較するなどして「鑑賞①」及び「観点の確認①」で直感的に捉え感じ取った古典の書風と書を構成する要素（字形・構成等）とそこから生じる表現性と表現効果を踏まえながら、新たに習得した知識・観点を活用して構想・工夫に取り組めるよう働きかける。 | ワ |  |  | ワ |  | 観 |  |  |
| **○作品制作①**・書風と書を構成する要素（字形・構成等）とそこから生じる表現性と表現効果を踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫して作品を表し、作品の写真データをタブレットで「学びの記録」の「作品制作①」に貼付するとともに、表現の工夫をしたことについて記録する。（半紙２字） | ・自身の複数の動画（始めの動画と構想・工夫の改善後の動画など）を撮影させ、構想・工夫の実現状況を自ら調整しながら制作に取り組むよう働きかける。（ＩＣＴの活用）・示範動画や事例を示して、表現活動を通して用具・用材の特徴と古典の書風及び用具・用材の特徴と表現効果との関わりについても理解が深まるよう働きかける。　（ＩＣＴの活用） |  |  | 作◎ |  |  | Ｉ |  | **技　◎：**・作品制作を通して、表現の意図及びそれに基づく構想の実現に向けた表現活動で表現を工夫する中で、孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆等の表現の技能を身に付け表している状況を、活動の様子の観察や作品及び「学びの記録」の「作品制作①」の記述内容等から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記入し、よい作品例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。 |
| **○相互鑑賞・意見交換①**・孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関係を再度確認し、見方・考え方を働かせて、他者との作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想と、その実現のための表現の工夫等について相互に考えを伝え合うことで、新たな感じ方や捉え方、考え方に触れ、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を見直し、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループまたは全員） | ・他者の作品や意見を認め合い、尊重する姿勢で活動するよう働きかける。・意見交換においては、それぞれの感じ方や捉え方、考え方を伝え合い、互いに他者の考え方を尊重しながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を広げられるよう働きかける。◆孔子廟堂碑の書風を捉えられていない生徒に対しては、孔子廟堂碑の書風と他の古典の書風とを比較して捉えられるよう画像等を活用して示し、孔子廟堂碑の書風と用筆・運筆との関係を再度確認させ、用筆・運筆から生み出される表現性と表現効果との関係について理解できるよう支援する。（ＩＣＴの活用） |  | ワ |  |  | ワ |  | 観 |  |
| **○構想・工夫の見直し①**・相互鑑賞・意見交換を通して広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫を見直し、必要な修正と新たな課題を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。 | ・示範動画と自身の動画とを比較するなどして、広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせながら、既得の知識・観点を活用して古典の書風を分析的に捉えることで、用筆・運筆から生み出される書の表現性と表現効果との関係について理解できるよう働きかける。・古典の書風を、字形や点画の形状等の視点からのみ捉えるのではなく、用筆・運筆（書における運動性）の視点からも捉えられるよう働きかける。　（ＩＣＴの活用）◆他者の意見の活用の仕方や、それを生かした構想・工夫の見直しの手順がスムーズに行えない場合には、活用の仕方を例示するなどして、段階的に必要な支援を行う。 | ワ◎ |  |  | ワ◎ |  | 観 |  | **知表◎：**・表現の工夫を見直し修正する活動を通して、既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点（書体や書風と用筆・運筆との関わり）、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（時間性と運動性）について理解し、活用して、適切な用語を用いて言語化したりする中で実感的に理解している状況を、ワークシートの「構想・工夫の見直し①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい知識の活用例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。**思表◎：** ・構想・工夫の見直しをする中で、見方・考え方を働かせ、既得の知識・観点（古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成）や〔共通事項〕（書を構成する要素（「字形」「構成」）、書における運動性）を活用したり他者の感じ方や捉え方、考え方に触れたりしながら構想・工夫し、広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化している状況を、ワークシートの「構想・工夫の見直し①」の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい見直しの例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。 |
| **○作品制作②（清書）**・構想・工夫の見直しを踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫して作品を表し、作品の写真データをタブレットで「学びの記録」の「作品制作②」に貼付するとともに、表現の工夫の見直したしたことについて記録する。 | ・見直した構想・工夫に基づき、表現を工夫するために、示範動画（や自身の動画）を確認させるなどし、構想の実現に向けた表現活動に取り組めるよう働きかける。（ＩＣＴの活用） |  |  | 作● |  |  | 観 |  | **技　●：** **・**これまでの「構想・工夫の見直し①」や「相互鑑賞・意見交換①」を生かして、更に構想・工夫を見直し、知識を生かしながら再構築している状況と、資質・能力を身に付けている実現状況を、「作品制作②」の作品及び「学びの記録」の「作品制作②」の記述内容から見取り、記録に残す。 |
| **〇相互鑑賞・意見交換②**・見方・考え方を働かせて、孔子廟堂碑の清書作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図に基づく構想の実現状況や、その実現のための表現の工夫の成果等について相互に考えを伝え合い、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を更に広げ、新たな考え等を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループまたはクラス全体で実施。） | ・作品の一斉掲示による共有（大画面での共有、個々のタブレットでの共有等）により、より多くの他者との相互鑑賞・意見交換できる環境を用意し、自身の学習の成果を見つめ直すとともに、それぞれに他者の学習の成果を認め合い、書のよさや美しさ、作品の意味や価値についても考えられるよう働きかける。（ＩＣＴの活用） |  | ワ |  |  | ワ |  | ワ |  |
| **○自己評価①**・自身の制作と構想･工夫の過程を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能を改めて見つめ直すとともに、見方・考え方を働かせて、完成した作品（清書）とその制作過程について振り返り、広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせながら孔子廟堂碑の書風を理解して作品を表すことができたか自己評価を行い、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の「表現学習の振り返り」に記録する。 | ・自身の学習過程の振り返りが、次時以降の学習への見通しに繋げられるよう働きかける。◆自身の学習過程の振り返りとそれに対する自己評価を適切に行えない場合には、振り返りと自己評価の方法や観点について例示するなどして、今後の学習活動での振り返り、自己評価に繋げられるよう段階的に支援する。 | ワ |  |  | ワ |  | ワ◎ |  | **態表◎：** **・**自身の制作過程を振り返る中で、孔子廟堂碑の書体や書風に即した表現の実現の学習活動で知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強く取り組もうとしているか、その中で作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能の振り返りで必要な修正と新たな課題について自らの学習を調整しようとしているかの両側面から、主体的に学習に取り組もうとしている状況を、「学びの記録」の「表現学習の振り返り」の記述内容から見取り、タブレットで「学びの記録」にアドバイスを記入して次時で返却するとともに、よい自己評価の例や全体に見られる傾向などについてクラス全体に対して例示や口頭でアドバイス・共有するなどすることにより、指導に生かす。 |
| まとめ | 10分 | **○学習のまとめ①**・本時の学習を振り返り、本時の学習内容、その中で併せて学習してきた〔共通事項〕の内容について改めて確認するとともに、自他の表現した作品の意味や価値について考え、学習成果を生活や社会の中で生かすことについて、主体的に考え、適切な用語を用いて言語化し、タブレットで「学びの記録」の鑑賞学習の振り返りに記録する。 | ・本時の学習を振り返らせ、本時の学習を通して習得した知識や技能、学習の中での思考・判断の過程、学習の中で働かせ広げた感じ方や捉え方、考え方について改めて確認させることにより、自身の学習の成果を実感させるとともに、自他の表現した作品の価値とその根拠について主体的に考えたり、学習成果を生活や社会の中で生かしていきたいと主体的に考えたりできるよう働きかける。 |  | ワ |  |  | ワ |  | ワ |  |
| ◎指導に生かす評価●記録に残す評価 | ◎ |  | ◎● | ◎ |  | ◎ |  |  |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.47～48、P.59～61、P.64～76を参考に作成

**５　参考資料・参考文献等**

　・授業で使用する資料、関連データ等

（ワークシート、ルーブリック、評価セッション・パフォーマンスシート、

　　アンケート等の数的資料や分析データ　等）

　・学習指導案を作成するに当たり、引用したり参考にしたりした資料等

・高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説芸術編

・小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）

・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）　他